

「SDGs」

鹿島共同可燃ごみクリーンセンター 本格稼働

私たちが出したごみはどこへ運ばれ、どのように処理されるのでしょうか。いよいよ今月から「鹿島共同可燃ごみクリーンセンター」が本格稼働します。そこで今回は、神栖市の環境にやさしいごみ処理やリサイクル事情に迫ります。



12 つくる責任 つかう責任



鹿島共同可燃ごみクリーンセンター

環境ごみ問題

生活していると必ず出る、さまざまなごみ。私たちの出すごみが増え続ければ、生活環境はもちろん地球環境にも影響を及ぼします。そのためごみ問題は世界共通の課題であり、国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）でも重要なテーマの一つとなっています。神栖市では、SDGsの国際目標を市の基本構想や環境基本計画に反映し、環境への負荷が少ない循環型のまちづくりを進めています。

そうした中、4月1日に「鹿島共同可燃ごみクリーンセンター」が本格稼働。そもそもなぜ新施設を建設したのか、鹿島地方事務組合事務局長の飯田さんに聞きました。

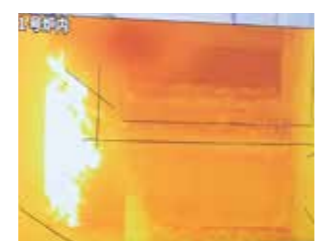
「これまで可燃ごみはRDF（固形燃料）化してきましたが、施設の老朽化に加え、多くの灯油を使うため環境負荷の問題もありました。そのため、低炭素社会を目指す国の方針に沿った新施設が建設されました」

新しい可燃ごみ処理施設

さっそく鹿島共同可燃ごみクリーンセンターを訪ね、三菱重工環境・化学エンジニアリング（株）の清水さん

と伊藤さんに新施設の概要を教えてくださいました。

可燃ごみの処理能力は1日当たり230トンで、115トン処理できる焼却炉が2基あります。炉内のごみはストロー（火格子）の上をゆっくり進みながら、850℃以上の高温で燃やされます。



モニターで炉内を確認

4階の部屋の窓からは、巨大なごみピットにためたごみをクレーンでピットの深さは約30メートル。工事中は、湧き出す水をくみ上げながら地下10メートルまで掘り下げたそうです。

他にも、なんと夜間には建物と煙突が7色にライトアップされます。鹿島コンビナートの夜景スポットに、新しい見どころが加わりました。

電気をつくり、環境を汚さない技術

この新施設に、「環境への配慮では弊社の最高の技術を使っています」と語る清水さん。環境にやさしいポイントを挙げてもらいました。

- 1 電気をつくる！**
ごみを燃やしたときに発生する熱を蒸気に変え、蒸気タービンを回して発電します。自前の電気でプラントを稼働し、余った電気は電力会社に売ります。発電量は4880kW、売電量は3500kWと、まるで小さな発電所です。
- 2 大気を汚さない！**
排ガスに含まれるすすやチリ、有害ガスなどを最新設備できれいにし、国が定める基準よりも大幅に低い数値にしてから排出します。煙突は高さ59メートル。上空には、煙ではなく水蒸気が放出されます。

3 悪臭を出さない！
ごみ収集車が入るプラットホームの入口は、高速シャッターとエアカーテンで臭いが外に漏れるのを防ぎます。ごみピットは密閉して吸気、悪臭のする空気は焼却炉へ送り、燃焼空気として活用します。



プラットホームにて。左から三菱重工環境・化学エンジニアリング（株）の清水さん、伊藤さん、鹿島地方事務組合の飯田さん、阿尾さん、熊野裕さん



焼却炉（外壁） 中央制御室でクレーンを操作

